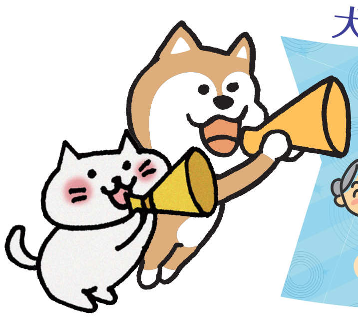


犬猫殺処分ゼロ活動に奮闘

ボランティア団体を応援しよう!

vol.3 「NPO法人 おきにゃあわんネットワーク」

沖縄県における犬猫殺処分数の減少に寄与しているボランティアさんたちの活動を紹介します。3回目は、沖縄県動物愛護管理センターの譲渡会のサポートなどを行っている「NPO法人 おきにゃあわんネットワーク」です。

微力はゼロではない

突然現れた大型犬の保護からスタート

NPO法人おきにゃあわんネットワークの前身は、2004年に有志数名でスタートした「沖縄動物愛護ネットワーク」。2020年のNPO法人化を機に、名称を変更し活動の場を広げています。

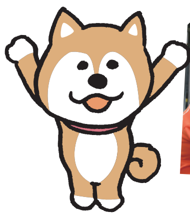
理事長を務める宮城直子さんが動物のボランティアに関わるようになったのは約18年前。ご主人の故郷である沖縄に引っ越してきたことがきっかけでした。

「ある日、突然ゴールデンレトリーバーらしき犬が玄関前にちょこんと座っていました。ラブラドールを飼っていて大型犬には慣れていたので戸惑うことなく保護し、飼い主さんを探すためセンターを訪れたとき、殺処分される犬猫の多さを知り愕然としました。何かできることはないかと思い、愛玩動物飼養管理士の資格を取ったのがはじまりです」

日本愛玩動物協会の沖縄支部長（当時）になったことをきっかけに沖縄動物愛護ネットワークを立ち上げ、多頭飼育崩壊の救済ボランティアに携わるなど活動をスタートさせました。

譲渡会前のシャンプーボランティア

小学校
出前授業



アイコンタクトの訓練

適正飼養の普及啓発に注力

NPO法人おきにゃあわんネットワークは、動物愛護の精神を通して、一頭でも不幸な動物たちを減らし、人と動物が共生できる社会を目指し活動しています。

「当面の目標は殺処分ゼロですが、最終的には保護しなくても殺処分ゼロになることを目標に、微力はゼロではないをスローガンに、細く長く活動していきたいと思っています」と語る宮城さん。

活動の特徴は、行政との連携があげられます。そのひとつがセンターで行われている「犬の譲渡講習会」のサポートです。譲渡会に参加する犬たちをシャンプーしたり、講習会で講師を務めたり、譲渡先を訪問して飼育環境を確認したり、アドバイスも行っています。

「犬だけをしつけても人間（飼い主）のマナーやモラルの向上など社会全体での意識が改善されなければ、何頭保護をしても処分される数はゼロにはならないので、適正飼養の普及啓発や飼い主さんの教育に力を入れています。そのほか子どものころから命の大切さを学ぶ必要性を考えて、沖縄県の一生うちのプロジェクトで小学校出前授業も行っています」と啓発の必要性を語ります。

こうした講習会だけでなく、さまざまなイベント会場で、沖縄県のペット事情や飼い方などの情報を分かりやすくまとめたパネルを展示し、飼養スキルの底上げを図っています。さらに防災危機管理学習においては、行政・獣医師会・地域と協力し、ペットと一緒に避難するために必要な対策やしつけ指導を行うなど、活動は多岐に渡っています。

防災グッズ

啓発を促す
展示パネル

支援方法

- 物資の提供（トイレシート、タオル、バスタオル、クレート、未使用の ペット用シャンプー、消毒用品）
- ボランティア活動（譲渡会参加・一時預かり）
- 寄付・募金
- 賛助会員募集中

個人	入会金:5,000円 年会費:3,000円	団体	入会金:10,000円 年会費:10,000円

「沖縄県で保護したい犬や猫の数は、保護できる人の何十倍にも上ります。これ以上不幸な動物が増えないようにするためには、正しい飼い方の啓発が必要です。私たちができることは微力だけどゼロではありません。行政・獣医師会・地域・飼い主、そして私たちが互いに力を合わせれば一頭でも多くの命を救うことができます。ただ無理すると長続きしません。それぞれができることをできる範囲で活動し続けることが大切です」と語る宮城さん。現在、沖縄県が行っている「成犬譲渡促進プロジェクト」に個人として関わり、センターで収容期限が過ぎた成犬を譲渡しやすくするために家庭犬としてしつけています。

「臆病だった子が訓練を重ねて家庭犬として成長していく姿を見るのは、とてもうれしくてやりがいを感じています」と笑う宮城さん。より多くのペットが幸せになっていくことに喜びを感じながら活動を楽しんでいます。

NPO 法人 おきにゃあわんネットワーク
沖縄県那覇市銘苅2-3-1なは市民協働プラザ
TEL.090-7882-5689
okinyaawan@gmail.com　https://okinyaawan.net